

あ～ったか移動町長室記録（斜里町農業を考える会）

日 時	2月14日（水）13:00～15:25	会 場	秋の川集会場
町民参加者数	11人		
内容詳細			
斜里町農業を考える会の発言		役場からの回答	
<p>【納税滞納者へのGメン適用】 税金の滞納や脱税などの問題について、町としてどう取り組んでいるか。</p> <p>【三井農林の伐採】 平成29年から三井農林の伐採が始まってから、山の保水力がなくなり、河川へ泥が流出していると感じる。秋の川・以久科川・猿間川など泥が堆積し、河川の増水がぐっと上がっている。</p> <p>【斜里川を考える会の事務局】 斜里川を考える会の事務局がなぜ、博物館にあるのか？</p> <p>我々は排水組合を通じ、役場の建設課や網走開発建設部に対して幾品川の床ざらいするよう要望をしている。一方、斜里川を考える会では幾品川をそのままにしてくれと要望を出しているようだ。我々の立場としては、生命の危機に係わる問題である。</p>		<p>【町長あいさつ】 まずもって、みなさんから移動町長室開催の声がけをいただいたことに対し、お礼を申し上げたい。事前に上がった質問事項だけではなく、普段聞いてみたいこと、やってみてみたいことを遠慮なくお話しいただきたい。</p> <p>→「税金Gメン」と呼ばれる国税捜査官と同じ役割を、町では税務課の職員は担っている。納付相談への対応や差し押さえなどにより、滞納額は年々減少している。これからも努力は怠らず続けていく。</p> <p>→話は了解した。水産林務課の方にそのことは伝え、三井農林に農家のみなさんが危惧していた旨を伝えるよう話す。</p> <p>→博物館の職員が事務局を担っているわけではなく、公開している連絡先を博物館しているだけ。博物館主催の教育普及事業で斜里川を考える会に協力を依頼していることから、そのように認めている。</p> <p>→住民の任意団体の活動ということは理解して欲しい。考える会も自然生態系の保全という点から、要望している。</p> <p>町も北海道の双方の意見を無視することはできない。意見をぶつけながら、折衷案を考えていかなければならない。</p>	

【ヒグマ対策】

農地には多面的機能支払交付金を活用し、電牧柵を整備しヒグマの侵入を防ぐことができているが、ここ2～3年、住宅付近にヒグマが近づいていると感じている。実際、住宅まで数10mまでというところまで来ている。

町で整備している市街地と同様に、横断的に電牧柵を張ることはできないか

電牧柵の効果は確認している。以前、畑に電牧柵を張った時はクマが寄りつかなくなった。しかし、畑を避けて家に寄ってきた。そのため、畑には張ることができないのが現状。

本当は、生産者をまたいで「面」で電牧柵を張りたいが、その場合、多面交付金は活用できないと聞いている。

【旧河川敷使用料】

現在、町の旧河川敷地（秋の川支流豊里川支流無名川）を農耕用地として占用しており、毎年町に旧河川使用料を支払っている。

本人名義の土地でなければ土地改良に制限がかかり、補助金がもらえないなど現場では大変苦慮している。

払い下げしてもらうことは、可能か。

【国保病院】

人工透析は、今後国保病院で可能にならないのか。

→町のヒグマの保護管理の基本的な考え方は人命最優先、次点で農作物などの被害防止である。ヒグマが高密度に生息しているウトロ市街地は電牧柵で囲っているが、河川からの侵入などなかなか防ぎきれない部分がある。

半島基部も約30kmあるシカ柵に電気ワイヤーを張ることは、すぐに対応は難しい。

川沿いなどよく出没する箇所は決まっていると思うので、そこに局所的に電牧柵を張るのが現実的な対応である。

→生産者が異なる畑であってもクマの行動範囲が続いているという観点から、広域的な範囲での多面交付金の活用を検討できる。事務局の農協にも相談していただきたい。実際に今年度、そういった事例もある。

もう1点、クマは学習能力が高いので、誘因物があれば餌付いてしまう。匂いが出るものなどできるだけ排除して欲しい。クマは出会えばすぐ襲うというものではない。この地域に住んでいればクマがいるということは当たり前という見方もできるので、刺激しないなど上手く付き合っていくしかない。

→多面交付金がどこまで活用できるのか、面でどこまで張ることができるのか、今後相談していただきたい。

→旧河川使用料は町では請求していない。

→旧河川ではなく河川としての占用料としていただいているのではないか。

→現在、上を流れている水がその旧河川敷地の下を流れて出ているのか、まったく別の場所を流れて出ているのかによって、払い下げできるかどうかが違う。

→その点について、こちらでも確認させて欲しい。

→小清水日赤病院が無料のバスを走らせていたが、採算などの理由から運行が難しくなった。現在は介護タクシーを契約して、利用料をいただきながら、暫定的に3年間運行する。

国保病院でできないか、内部的に検討しようという段階。まだ、国保病院でできる見込みがあるかないかと言える段階ではない。

【以久科 6 号道路の整備】

以久科 6 号道路の横断管の突出により、トラックの荷崩れがおきるほどの凸凹が路面にできている。すぐに対応は難しいと思うが、段階的に補修できないか。

【町議の確保】

全国的に地方議会議員のなり手不足が課題になっている現状があるが、斜里でも若手のなり手がいないなど課題はあると思う。どのような対策をとっているか。

【シロシスト対策】

シストセンチュウの対策についての現状を聞きたい。

観光客が写真撮影のために、小麦畑に侵入している様子をよく見かける。外からシロシストの侵入を防ぐという意味で、日本語だけでなく外国語表記の注意啓発看板を立ててもらえないか。

【観光地としてのアピール】

町として、観光地のアピールが足りないのではないか。

→現在、市街地から近い方を優先的に道路の補修を行っている状況。こういった要望があるということは理解したので、雪解け後に現状を確認できるところから改善に努めていきたい。

→3 年前の町議会議員選挙の無投票を受け、「議会のあり方調査特別委員会」を設置した。議会モニターのみなさんから率直な意見をもらいながら、議員の定数や報酬などについて検討している最中。

みなさんも議会中継などをご覧いただき、議会に関心を持って欲しい。もう少し検討の時間をいただくとともに、みなさんからも「こうしたらいい」といった意見をいただきたい。

→平成 27 年に網走でシロシストセンチュウが確認された。対策としては土壌の消毒と対抗植物の植栽が有効であるため、これら確実に行っていく。抵抗性品種は、32 年には使えるようになるよう開発がすすめられていると聞いている。

町としても対策の強化を国に要請していくし、みなさんでもできることをやっていただきたい。

→洗車場整備については、農協で個別計画はもっているものの、管内での広域的な対応がなかなか進んでいないのが現状。

抵抗性品種が開発されたとしても、斜里に合うものがあるかどうか難しい状況。まずは発生市町村を拡大させないという対策が重要であるので、広域の動きを注視しながら農協への支援を引き続き行いたい。

→看板は支障物という生産者もいる。観光ポイントに隣接している場所では特に検討が必要だと思う。今回はご意見があったということで受け止めた。

→観光客が小麦畑によく侵入するという事は、それだけ魅力的な風景だということ。

農業の現場と観光で、接点をもっと持つことはできないだろうか。

観光地としての価値が高まれば、斜里に来てくれることはもちろんだが、斜里で獲れた農産物・水産物の価値が高まり、トータルでの観光地域づくりになる。つまりは、間接的に農業・漁業の振興になる。

→農業を見せる場にするということには、賛成。だが、

<p>【農業の6次産業化】 今後6次化に取り組み、商品をつくって売り出す場合に、どれだけ「知床」という名前を利用してよいのか。商標登録の状況もわからない。また、私たち農家だけでは商品開発は難しい。町に協力していただきたい。</p> <p>そして、商品を開発した場合に、その商品を道の駅しゃりで販売できるかどうかを聞いたかった。</p> <p>【結婚対策】 農業者以外の結婚対策の現状は？</p> <p>【みらいあーるの現状】</p> <p>クマ対策という面からも、生ゴミの回収を集落地域も市街地と同様に週2回にして欲しい。</p> <p>【地震対策】 地震、津波、噴火が起きた場合どうすればいいのか。避難訓練はしないのか？</p>	<p>病虫害対策の面から見学できる場所を決めてガイド付きのツアーにするなど一定の制限は必要。さらに斜里に人が来て、楽しんでもらう切り口になるような農業資源はたくさんある。</p> <p>→その時にしか、見られないものがたくさんあるのが農業。農業を理解してもらうためにも、見せる場をつくるのは必要である。</p> <p>→道の駅しゃりでは平成30年度から、試験的に物販行為を広く募集する取り組みを実施予定。 また、商品開発には「地場産業活性化チャレンジ事業」という補助制度があるので、活用してほしい。</p> <p>→おおよそでも考えているものがあれば、担当部署の商工観光課に相談して欲しい。</p> <p>→知床だけでは羅臼もあるので、町では「知床しゃりブランド」で斜里の名前をつけている。町の総合計画でも、「知床しゃりブランド」という名前をもっと打ち出していく必要があるという考えはある。 普段相談している農務課を通じてでもいいので、まずは話をしていただきたい。</p> <p>→協議会をもって対策を行っているのは、農業者のみ。ただ、最近は斜里の若者で組織されているユースまちづくり委員会が若者たちの交流会を企画・運営している。</p> <p>→生ゴミ袋は生分解性の袋を使っているため、「袋の強度」が弱いという声もいただく。こちらからのお願いになってしまうが、暗所での保存・水切りの徹底などをお願いしたい。 また、衣類の拠点回収にも協力いただきたい。</p> <p>→収集車の配置で難しいのが現状だと思うが、その要望があったことは環境課に伝えたい。</p> <p>→今年、総合防災訓練を実施する年である。みなさんにもできるだけ、参加をしていただきたい。 また、岩手県住田町とも防災協定を締結した。総合防災訓練の前日には、東日本大震災を経験した住田町の前町長の講演会をやるので、ぜひ参加して欲しい。 いざという時のために、自分が避難する場所はどこ</p>
--	--

【中学校グラウンドの人工芝】

中学校のグラウンドに人工芝をひくという話を聞いたが、スケートリンクが造成できなくなるのではないかという懸念がある。代替案はあるのか知りたい。

【代表あいさつ】

今まで疑問だったことが解消された、大変有意義な場になったと思う。また、町に対し質問や要望が出てきたら、改めて移動町長室を開催させていただきたい。

か一人一人描いておく必要はあるし、今日のようにみんなが集まった時にどこに避難すべきか、地域で話す場を設けてもらえればと思う。

→そもそも、中学校のグラウンドを人工芝にするか規模も含めて検討中。スケートリンクがなくなるということはないので、スケート協会とも協議しながら、判断をさせてもらいたい。

【町長あいさつ】

すべての疑問が解消された訳ではないと思うが、今後も部署関係なく、知っている職員に疑問をぶつけて欲しい。みなさんの役場なので聞くことはためらわないで欲しい。これからも一緒に力を合わせ、よりよい町をつくっていききたい。